



タイトル「**2024年度危機管理学部(公開用)**」、フォルダ「**危機管理学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT3303S		
科目名	社会調査論		
担当教員	宮脇 健		
対象学年	2年,3年,4年	開講学期	前期
曜日・時限	火 4		
講義室	フォーラム室（6階）	単位区分	選
授業形態	講義	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門展開		
科目小分類	専門基礎		
科目の位置付け（開発能力）	■ D Pコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP1-E〔学識・専門技能〕専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。 DP4-I〔理解力・分析力〕文章表現、数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、課題の解決につなげることができる。 ■ C Rコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（C R）との関連 E1 学識と専門技能（60%） I1 理解・分析と読解(20%) I2 量的分析（10%） I3 情報分析（10%）		
教員の実務経験			
成績ターゲット区分	■成績ターゲット 能力開発の目標とステージ 3 発展期 ～ 4 定着期		
科目概要・キーワード	自然災害や原子力災害のような大規模事故、世界各国で発生するテロ事件などの危機的な状況において人々はどのように行動し、どのような情報収集を行っているのか、どのような問題が発生したのか、といったことを明らかにするには、クライシスコミュニケーションの観点からの被災者や住民への社会調査が必要となります。また、国や自治体の防災対策の現状、民間企業のBCPの普及状況、情報セキュリティの強化に関する現状について、その解明するためには、リスクコミュニケーションの観点からも、社会調査が必要となります。そのため、本科目では、有益な危機管理の政策を構築するために必要となる、様々な社会調査の方法について学びます。具体的には、社会調査のデータの読み解き方、問題意識の設定、社会調査の実査、分析の方法について検討を行います。授業形態は(講義・演習)形式により行います。なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れる場合があります。 ■キーワード 社会、問題意識、世論、統計分析		
授業の趣旨	■副題 現代社会における、様々なリスクと問題について明らかにするために社会調査の方法論を学び、そのスキルを修得することで、世の中の現象を見る目と分析する力を涵養します。 ■授業の目的 危機管理にかかわる各種調査を学生が自ら設計し、実施、分析するための基礎的な考え方と社会調査の技法を獲得することを目的としています。特に、社会調査を行うにあたり、①自らが危機管理に関わる課題を見つけ仮説を設定すること。②課題を解決するために必要な適切な調査方法を採用すること。③その調査方法を踏まえた実査を行えること。④その調査で得られた結果を定量的、定性的に分析し、どのようなことが明らかになったのか考察をできること。		

	⑤自ら掲げた課題に何らかの方策を見つけ出し、他人に説明できること。以上の能力を身につけるための基礎を涵養することを目的としています。 ■授業のポイント 現代社会にはありとあらゆるデータが公表され、その中には数字に関わる調査データが散見されます。数字が苦手でも、その数字が何を意味するのか、また公表された調査データが適切なものか、これだけデータがあふれているからこそ見極める力が必要となります。そして、その前提となる調査の適切さを理解する必要があります。そのため、社会調査が如何にして、設計されるのかなど、その仕組みから分析の方法の基礎を学び、危機管理の現場でも必要となる社会調査のスキルを身に付けるための実践的な学びを行います。						
総合到達目標	社会調査を実施するために必要なPCや統計分析などの基本的なスキルを習得することで、危機管理に関わる社会調査の結果について客観的な指標をもとに理解し、その指標を踏まえて自らの見解を述べるができるようになる。 ■社会調査の目的や方法に関する基礎的知識について説明できる。 ■社会調査の方法について具体例を用いて説明できる。 ■社会調査で用いられる基礎的なデータを解釈することができる。 ■社会調査を行う際に必要な倫理的な注意点について説明できる。 ■社会調査を実践するために質問紙調査などの計画と作成ができる。 ■上記の作業を行うための必要なPCスキルを身に付けることができる。						
成績評価方法	■Webでのリアクションペーパー（5回）30%、E1、I1、 （評価の観点）授業中に話した社会調査の事例についての質問を行い、その社会調査の意図や設計の問題点について理解しているのかどうか確認を行います。 （フィードバックの方法）授業の最後に、質問の意図と解説を行い、復習を行います。 ■小テスト（1回）30% E1、I1、I2、I3 （評価の観点）社会調査を実践もしくは実践するために必要な最低限の用語、方法とその目的について理解をしているのかどうか確認を行おこないます。また、調査データの読み取りが出来ているかどうか、授業中に30分程度の小テストを行い確認を行います。 （フィードバック）小テスト終了後、テストの解説を行い、復習を行います。 ■授業内レポート40%（2回）E1、I1、I2、I3 授業内レポートは2回行い、1つは社会調査の質問紙を学生が授業中に作成し、問題意識、調査概要、質問項目をまとめたものをグループで提出してもらうことで、社会調査の一連の技法が修得できているのか確認を行う。もう一つは、社会調査の授業で説明した、調査後のデータの収集と分析が出来ているのかどうかを確認するために、簡単な図表の作成とデータの分析をしてもらい、その内容に考察を加えてレポートとして提出をしてもらいます。このレポートでは、実査後のデータの分析と分析に基づく考察が出来ているのかどうか確認します。 （フィードバック）両レポートともに最終授業の際に、望ましい社会調査質問紙の作成方法の例示とデータ分析の解説を行います。						
履修条件	特にありません。						
履修上の注意点							
授業内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th><th>内容</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td> ①授業テーマ 社会調査論のガイダンス ②授業概要 社会調査法の授業の進め方、評価の方法、そして、15回の内容について、プレ授業形式で学び（E1）、社会調査論の講義の内容について理解することで、社会調査の特徴について説明できるようにする（I1） ③予習(120分) シラバスを読み、身の回りにどのような社会調査があるのかを文献やインターネットを用いて調べてくる ④復習（120分） 授業の冒頭で紹介した実際の社会調査に関して、どのような方法で行われているのかノートに書いて分析方法の妥当性について検討してみる。 </td></tr> <tr> <td>2</td><td> ①授業テーマ 社会調査とはそもそも何か ②授業概要 社会の中にはあまた社会調査といわれるものが行われているが、そもそも社会調査とはどういうものを指し示すのか学習する。具体的には、どうして社会調査が行われるようになったのか、その歴史的経緯について学び（E1）、社会調査の意義について自分で説明できるようにする（I1） ③予習（120分） 17世紀のイギリスの状況について調べてくる。 ④復習（120分） </td></tr> </tbody> </table>	回	内容	1	①授業テーマ 社会調査論のガイダンス ②授業概要 社会調査法の授業の進め方、評価の方法、そして、15回の内容について、プレ授業形式で学び（E1）、社会調査論の講義の内容について理解することで、社会調査の特徴について説明できるようにする（I1） ③予習(120分) シラバスを読み、身の回りにどのような社会調査があるのかを文献やインターネットを用いて調べてくる ④復習（120分） 授業の冒頭で紹介した実際の社会調査に関して、どのような方法で行われているのかノートに書いて分析方法の妥当性について検討してみる。	2	①授業テーマ 社会調査とはそもそも何か ②授業概要 社会の中にはあまた社会調査といわれるものが行われているが、そもそも社会調査とはどういうものを指し示すのか学習する。具体的には、どうして社会調査が行われるようになったのか、その歴史的経緯について学び（E1）、社会調査の意義について自分で説明できるようにする（I1） ③予習（120分） 17世紀のイギリスの状況について調べてくる。 ④復習（120分）
回	内容						
1	①授業テーマ 社会調査論のガイダンス ②授業概要 社会調査法の授業の進め方、評価の方法、そして、15回の内容について、プレ授業形式で学び（E1）、社会調査論の講義の内容について理解することで、社会調査の特徴について説明できるようにする（I1） ③予習(120分) シラバスを読み、身の回りにどのような社会調査があるのかを文献やインターネットを用いて調べてくる ④復習（120分） 授業の冒頭で紹介した実際の社会調査に関して、どのような方法で行われているのかノートに書いて分析方法の妥当性について検討してみる。						
2	①授業テーマ 社会調査とはそもそも何か ②授業概要 社会の中にはあまた社会調査といわれるものが行われているが、そもそも社会調査とはどういうものを指し示すのか学習する。具体的には、どうして社会調査が行われるようになったのか、その歴史的経緯について学び（E1）、社会調査の意義について自分で説明できるようにする（I1） ③予習（120分） 17世紀のイギリスの状況について調べてくる。 ④復習（120分）						

	自分の関心がある領域に関する社会調査をインターネットなどで調べ、その意義について検討する。
3	①授業テーマ 社会調査の種類とその意義 ②授業概要 実際に行われている多種多様な社会調査の種類とそれぞれの特徴について学習し（E1）、社会調査の種類とそれぞれの意義について説明できるようにする（I1）。 ③予習（120分） 聞き取り調査、インタビュー調査といわれる調査方法に関する論文を調べ、その研究意義の部分を読んでくる。 ④復習（120分） 講義で紹介した社会調査が実際にどれくらい行われているのか調べ、意義についてノートに列挙してみる。
4	①授業テーマ 量的分析と質的分析の方法 ②授業概要 量的な分析と質的な分析とはそもそもどのように異なるのか、その違いと方法の違いについて学習し（E1）、なぜ両者が使い分けられているのか理解し、両者を適応する際の方法について説明できるようにする（I2）。 ③予習（120分） 量的分析と質的分析は何が異なるのかインターネットや書籍で事前に調べて、差異をまとめる。 ④復習（120分） 量的分析として考えられる危機管理に関する調査を調べてノートに書いて、そのメリットとデメリットについてまとめる。
5	①授業テーマ 質的分析の実践方法 ②授業概要 質的分析を用いたいくつかの社会調査についての説明から、質的分析を行った社会調査の方法を実例から多角的に学ぶことで（E1）、質的分析を行うための準備と方法について習得できるようにする（I3）。 ③予習（120分） 領域を選択した理由について友達5名に詳細に聞いてメモを作成する。 ④復習（120分） 予習で聞き取った領域選択の理由についてまとめて、その理由の共通項、差異から選択の理由を分析と考察をしてみる。
6	①授業テーマ 問題意識と仮説の立て方 ②授業概要 社会調査を行うためには、問題意識が重要となる。なぜ、その社会調査を行わなければならないのか、という問いが立たずして調査を行うことはできない。また、その調査もただ行えばよいわけではない。そこで、仮説が重要となる。そのため、社会調査における問題意識と仮説について学ぶことで、問題意識と仮説の意義を理解し（E1）、仮説を立てることができるようにする（I1、I2、I3）。 ③予習（120分） 自分の重きを置く領域に関わる問題についての問題意識と仮説を自分で検討してノートに書いてくる。 ④復習（120分） 予習でメモをしてきた問題意識と仮説が成り立っているか検討する。検討したのちに再度、仮説が成り立つかどうかノートに記載してみる。
7	①授業テーマ 調査計画の立て方と調査方法 ②授業概要 社会調査を行うためには、綿密な計画とその計画を実行するための適切な方法を選択しなくてはならない。では、計画をどのように立て、どのような方法で行えばよいのだろうか。調査計画の立て方と方法について学ぶことで（E1）、調査計画を立てることができるようにする（I2）。 ③予習（120分） 前回立てた問題意識と仮説を明らかにするためにはどういう計画でどういう方法で行えばよいのか検討してみる。 ④復習（120分）

	自分の立てた問いのための計画と調査方法を確定するために、ポータルで配布されたシートに研究の概要を記載して検討してみる。
8	①授業テーマ：社会調査と基礎的概念 ②授業概要：社会調査を行い、分析を行うためには適切な方法と手段を選ばなくてはならない。そのためには、前提となる社会調査の基礎知識が必要となる。なぜ、朝のテレビ番組で行われる街頭調査の多くは世の中を的確に示せないのか、そこには社会調査に必要な知識の不足によるサンプリングのバイアスが存在する。そこで、サンプリング、バイアスといった社会調査の基礎的な知識について学び、その知識について説明できるようにする。本授業中に前回の授業までの知識が定着しているか小テストを行います。 ③予習（120分） 朝のテレビ番組の街頭調査を見て、その内容と調査方法についてメモをして、バイアス、サンプリングについて問題があるのかを考えてみる。 ④復習（120分） 授業中に行った小テストの結果を踏まえて、社会調査に関わる知識の復習を行う。
9	①授業テーマ：社会調査と質問紙の作成 1 ②授業概要：社会調査を行うためには量的・質的な分析を行うにしる、質問紙やヒアリング項目、コーティング表など調査のための準備をしなくてはならない。そのため、質問紙の作成方法に関する技術的な方法について学ぶことで（E1）、より良い質問紙調査を行えるための方法を身につけることができるようにする（I1）。また、本授業から後半は関心のある領域と社会問題のグループに分かれて（5名×20グループ程度）、質問紙の作成を行う。 ③予習（120分） 授業前に配布された「危機管理の課題に関する調査の質問紙」、「ヒアリング項目」に関するシートに調査したい項目を書いてみる。 ④復習（120分） 予習の際に配布されたシートに記載した質問項目の問題点について、検討し、再度修正してみる。
10	①授業テーマ 社会調査のデータ化作業 ②授業概要 社会調査を分析するためにはデータを入力し、整理する必要がある。アンケート調査を行った場合にはどういうデータ整理を行うと分析可能なのだろうか。分析のためのデータ化する作業の方法について学ぶことで（E1）、実査した内容をデータ化する作業ができるようにする（I3）。 ③予習（120分） 自分で作成した社会調査の質問紙、またはヒアリング質問紙の入力や分析をどのように行えばよいのか検討してみる。 ④復習（120分） 授業中に配布した復習用のアンケート調査結果をエクセルにデータとして、授業用の入力参考資料に基づき入力してみる。
11	①授業テーマ：社会調査と質問紙の作成 2 ②授業概要：社会調査を行うためには量的・質的な分析を行うにしる、質問紙やヒアリング項目、コーティング表など調査のための準備をしなくてはならない。そのため、質問紙の作成方法に関する技術的な方法について学ぶことで（E1）、より良い質問紙調査を行えるための方法を身につけることができるようにする（I1）。また、本授業から後半は関心のある領域と社会問題のグループに分かれて（5名×20グループ程度）、質問紙の作成を行う。 ③予習（120分） 授業前に配布された「危機管理の課題に関する調査の質問紙」、「ヒアリング項目」に関するシートに調査したい項目を書いてみる。 ④復習（120分） 予習の際に配布されたシートに記載した質問項目の問題点について、検討し、再度修正してみる。
12	①授業テーマ：社会調査と質問紙の作成 3 ②授業概要：社会調査を行うためには量的・質的な分析を行うにしる、質問紙やヒアリング項目、コーティング表など調査のための準備をしなくてはならない。そのため、質問紙の作成方法に関する技術的な方法について学ぶことで（E1）、より良い質問紙調査を行えるための方法を身につけることができるようにする（I1）。また、本授業から後半は関心のある領域と社会問題のグループに分かれて（5名×20グループ程度）、質問紙の作成を行う。 ③予習（120分） 授業前に配布された「危機管理の課題に関する調査の質問紙」、「ヒアリング項目」に関するシートに調査したい項目を書いてみる。

	④復習（120分） 予習の際に配布されたシートに記載した質問項目の問題点について、検討し、再度修正してみる。
13	①授業テーマ：社会調査と質問紙の作成 4 ②授業概要：社会調査を行うためには量的・質的な分析を行うにしろ、質問紙やヒアリング項目、コーティング表など調査のための準備をしておくはならない。そのため、質問紙の作成方法に関する技術的な方法について学ぶことで（E1）、より良い質問紙調査を行えるための方法を身につけることができるようにする（I1）。また、本授業から後半は関心のある領域と社会問題のグループに分かれて（5名×20グループ程度）、質問紙の作成を行う。 ③予習（120分） 授業前に配布された「危機管理の課題に関する調査の質問紙」、「ヒアリング項目」に関するシートに調査したい項目を書いてみる。 ④復習（120分） 予習の際に配布されたシートに記載した質問項目の問題点について、検討し、再度修正してみる。
14	①授業テーマ 社会調査データ分析の方法 ②授業概要 社会調査データを分析するために必要となる、基礎的な検定の考え方と方法について学ぶことで（E1）、その意義や方法について理解できるようにする（I1）。また、その方法を実践できるようにする（I3）。 ③予習（120分） 事前に配布した、親の年収と子供の学力に関するデータから両者が相関するのかを調べてくる。 ④復習（120分） 事前に提示した調査データの中で、授業では行わなかった設問のt検定を行い、データを保存する。
15	①授業テーマ 社会調査のまとめ ②授業概要 社会調査の講義を通して、学んできたことを整理し、危機管理に関わる社会調査の構築について再度検討することで、社会調査の方法を体得できるようにする（I1、2、3）。 ③予習（120分） 前回までのデータ分析結果をまとめてくる。（レポート課題の提出） ④復習（120分） データ分析の結果、どういう考察ができるのか授業をふまえて考えてみる。また、今後の学修方針を考える。
関連科目	危機管理学概論（RMGT1301S）、リスクマネジメント（RMGT1302S）、リスクコミュニケーション（RMGT1303S）
教科書	特に指定しません。
参考書・参考URL	特に指定しません。ただし、最初のうちはレジュメを配布する予定し、参考文献を複数冊記載するので、読むことが望ましいです。 内閣府HP https://survey.gov-online.go.jp/index.html NHK放送文化研究所 http://www.nhk.or.jp/bunken/research/yoron/index.html
連絡先・オフィスアワー	■連絡先 開講時に告知します。 ■オフィスアワー 月曜日、火曜日：お昼休み
研究比率	■危機管理領域との対応 災害マネジメント：25%、パブリックセキュリティ：25%、グローバルセキュリティ：25%、情報セキュリティ：25% ■危機管理学と法学のバランス 危機管理学：90%、法学：10%



